

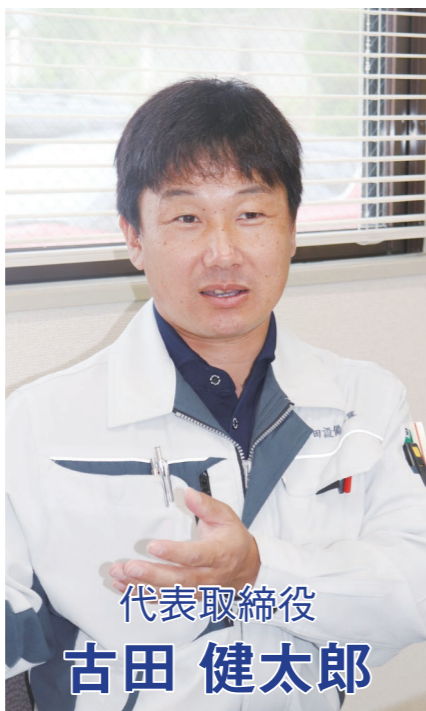
株式会社 古田設備工業

山口県下関市豊浦町大字川棚 7452-7

URL : <https://furutasetubi.jp>

感謝の思いを忘れずに、成長していききたい 周囲の方々の支えがあって今がある

山口県下関市を拠点として、給排水衛生設備設計施工を中心に事業を展開している『古田設備工業』。古田社長と奥様の古田専務は、二人三脚で日々業務に尽力している。本日は、そんなお二方のもとを俳優の大沢樹生氏が訪問し、お話を伺った。



代表取締役
古田 健太郎



専務取締役
古田 妙子

——まずは、『古田設備工業』さんの業容からお聞かせ下さい。

(健) 1977年の創業以来、給排水衛生設備設計施工や床暖房工事、空調設備工事、各種メンテナンス工事、上下水道工事、土木工事、水道施設工事などを手掛けてきました。私は2021年4月に先代から代を引き継ぎまして、三代目にあたります。

(妙) 当社の先代は私の父でして、社長は養子として入ってくれたのです。

——そうだったのですか。では、それまで古田社長は別のお仕事を？

(健) 大工として働いていました。義父とも話をし、転身してこちらを手伝うことにしたのです。

(妙) 私は、高校卒業後すぐに家業に入りました。父のことは大好きでしたから、父が辞める時に一緒に辞めようと思っていたのです。でも、社長と一緒にやってくれることになって、それならまた頑張ろうと思い、今に至ります。父は、社長を本当の息子のように思っていますよ。

——専務はもちろん、先代もきっと嬉しかったのでしょうか。

(健) とはいえ、最初は大変でした。従業員の方々からしても、いきなり未経験の人間が入ってきて代を継ぎますと言っても、簡単には認められないでしょう。それに、仕事をする上で人間関係はとても大切なことです。ですから、まずはしっかりと仕事を覚えて、周囲の方々に信頼してもらえるところからだと思いました。

(妙) 社長は、性格的にお喋りではない

ということもあるのですが、本当に文句一つ言わず、黙々と仕事に打ち込んでいました。見積もり一つ作るにしても、今は優秀なソフトがありますから、簡単に作れるようになってきていますが、社長は自分が納得するまで本を読んどことん調べて作り込むのです。だからこそ、お客様に何を聞かれても答えることができます。そうして、少しずつ信頼を築き上げていきました。凄いなと思います。

(健) しかし、私は人見知りで、あまり気持ちを言葉にするのが得意ではないのです。その点、専務は外部の方とお会いしても積極的にお話することができますし、言うべきことはしっかりと伝える人です。そういった意味で、私は専務に助けられていることも多いのですよ。

——互いに補い合っているんですね。経営者は孤独だと思いますが、支え合える存在がいるのは心強いですか。

(健) ええ、本当に。専務をはじめとして、従業員の方や協力会社の方々など、たくさんの方に支えられていると思っています。

(妙) 本当にそうですね。独立当初は不安もありました。一緒に働いてくれている従業員さんたちや協力会社さんの生活を守らなければならない。本当に自分たちにできるのだろうか、と。でも、皆さんが本当に頑張ってくれて、新しい人材も入ってきて、社内の雰囲気もどんどん良くなっていきました。それは、社長の力も大きいと思います。社長は、どんな仕事でも誠実に取り組みますし、いつも

優しくて滅多に怒らないので、たくさんの方に好かれています。私は逆に色々言ってしまうので、怖がられているかもしれませんね(笑)。

——怖いなんて(笑)。社長も専務もお優しい方だと思います。社長は、お仕事をされる上でどんなことを大切にしておられるのでしょうか。

(健) 先にも触れましたが、人間関係です。私の好きな言葉は一期一会でして、たくさんのお会いに助けられてきました。従業員や協力会社さん、そしてお客様。皆様からの信頼があって、当社は成り立っています。メイン事業である設備工事一つ取っても様々な種類がありますし、現場も、学校や病院、ホテルや温泉など様々です。その一つひとつの現場に入る度に、それぞれの専門の職人さんやメーカーさん方に助けられてきました。良い方々に恵まれたからこそ、その信頼を失うことはしたくないのです。

——社長のその誠実な思いが伝わるからこそ、皆様も助けになりたいと思われているのでしょうか。最後に、今後についてはいかがでしょうか。

(妙) いつも社長と話していることですが、3年後、5年後、10年後と、自分たちがこうなっていたという目標を立てて、それに向かって頑張っています。一つひとつは小さな目標で、民間の仕事をどれくらい増やすとか、従業員を何人増やすとか、中には個人的な目標もありますね。そうした目標に向けて、少しずつでも進んでいくことが、結果として会社



の成長につながっていくと思います。ただ、経営者だからといって私腹を肥やすようなことはあってはならないと思っています。まずはしっかりと利益を上げて、従業員の皆にも還元していきたいですね。

——従業員の方々は、そんなお二方の思いを感じていらっしゃると思いますよ。お二方を中心とした和気あいあいとした雰囲気も、『古田設備工業』さんの魅力だと思います。その温かさがあれば、これからも皆様に愛される会社でいられることでしょうか。

(妙) ありがとうございます。成長はしていきたいですが、上を見すぎずに、今の自分たちにできる範囲で着実に進んでいきたいですね。最近はホームページを一新して、若い子たちを前面に押し出しています。特に現代は、こうしたメディアでの発信が大切になってきていると感じています。従業員の皆には、至らない私たちですが、これからもついて来てくれたら嬉しいですね。

(健) たくさんの方々に支えられて今があります。本当に感謝ばかりですね。

(2021年7月取材)

▶▶▶公私共に支え合うパートナーとして

▼夫婦二人三脚で事業を進めている古田社長と古田専務。性格は真逆と言って良いのかもしれないが、だからこそ互いに補い合い、支え合っていることが感じられた。そんなお二方の共通する思いは、周囲の方々への感謝と、先代への尊敬だ。先代であり、専務のお父様は、器が大きくて、芯を通す人だったという。そんな先代の後を継ぐことに、不安を覚えたこともあったそうだ。でも、お二方には心強いパートナーがいた。互いの存在がどれほどのものだったのかは、お二方が口を揃えて「一人だったらやっていかなかったと思います」とおっしゃる姿からも想像に難

くない。
▼対談の最後に、そんな仲睦まじいお二方にお互いへのメッセージを伺った。専務は、「言わないといけないことはしっかりと言い合って、一緒に頑張っていきましょう。感謝しています」とのこと。そして社長は、しばらく言葉に悩んだ後に「感謝だけです。私は積極的に前に出ることができませんから、専務がそれを担ってくれているのは本当にありがたいです」と語った。そして笑い合うお二方の姿を見て、互いにどれほど信頼しているのかが伝わってくる。そんなお二方の雰囲気も相まって、とても心温まる対談となった。



大沢 樹生 (俳優)

古田社長は、確かに言葉は少ない方でしたが、対談では丁寧に一生懸命思いを伝えようとして下さり、とても誠実な方なのだと感じました。そして古田専務は、そんな社長の誰よりの理解者であり、互いに信頼し合っていることも伝わってきましたね。